

委員長挨拶の概要

・来賓、執行委員、書記の紹介

・東日本大震災津波被害

完全復興にはまだまだの状況。原発事故関連では、復興庁の調査ではいまだに6万8千人が避難している。汚染水の処理やデブリの取り出し、廃炉の問題もまだなのに政府はベースロード電源と称して原発を再稼働させている。「語り継ぐつどい」等をとおして、風化させないとりくみをしてゆく。

・賃金

この5年間で退職手当400万円引き下げからはじまり、55歳昇給停止、地域給導入にともなう給与制度の総合的見直しによる給与引き下げ、昨年度提出された退職手当78万円の引き下げなど、業務が無制限に増加するなかこの仕打ちは我慢できない。真に安心して働ける環境にしてゆかなければならない。

・「新たな県立高校再編計画」の「後期計画」

財源不足を理由とした、単なる数あわせの再編計画にならないようにとりくみを強化する。いかなる地域・家庭に生まれてもゆたかな学びを保障するという民主教育の原点を再確認してゆくべき。

・学習指導要領改定、高大接続

今回のポイントは「社会に開かれた教育課程」であり、「よりよい学校教育をとおしてよりよい社会を創る」という理念。「資質・能力」の育成を中心とする教育、そしてその観点別評価方法を批判的に見るべき。「高校生のための学びの基礎診断」「大学入試共通テスト」は公教育に教育産業がますます入り込んでゆき、日々の授業が歪められる事態にならないか危惧する。

・政治

安倍政権は戦争のできる国作りを着々とすすめており、「憲法改悪」をもくろんでいる。大学生の51.3%が奨学金を借りており、その81%が日本学生支援機構の奨学金。朝日新聞によると過去5年間で奨学金が絡む自己破産は、のべ1万5,338人で、そのうち本人が8,108人、連帯保証人と保証人が7,230人。せっかく進学しても学費や生活費のためにアルバイトに明け暮れなければならなかったり、自己破産してしまう国ってどんな国でしょう。給付型奨学金制度の拡充、授業料の引き下げなどにとりくんでゆかなければならない。

・過労、多忙化解消

昨年度は、私たちの仲間4人が現職で亡くなった。多忙も一つの原因になったのではないか。命より大切な仕事はない。もう一度働き方を見直してみしてほしい。自分の勤務時間を把握し、無定量的な労働に歯止めをかけよう。

・組織強化

岩手高教組は支部、分会のとりくみの結果、高組織率を維持している。仲間と団結し行動するエネルギーが必要。新採用者や未加入者の加入をよろしく願います。

大会を支えた皆さん

・議事運営委員

藤澤勝利さん（盛岡峰南高等支援分会）
廣田佳大さん（不来方分会）
鈴木淳子さん（花巻清風支援分会）
女ヶ沢美智子さん（高現組・盛岡視覚支援分会）

・議長

畠山隆行さん（盛二分会）
大石敦子さん（宮水分会）

・議事録署名委員

西里孝義さん（平館分会）
小田島哲男さん（伊保内分会）

・大会決議起草委員

平山道郎さん（盛商分会）
高橋拓さん（杜陵奥州校分会）
久慈美香さん（一関清明支援分会）